

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画	
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数	実施内容
1	職務の理解 6時間	1 職務の理解 6時間	1 職務の理解
	(1) 多様なサービスの理解	(1) 同左 1	(1) 講義及び演習：介護保険と保険外サービスについて講義を行い、DVDによる説明後、介護についての印象をグループで討議する。
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	(2) 同左 5	(2) 講義及び演習：居宅・施設サービス提供現場の実際について講義を行い、演習ではDVDの事例から具体的に利用者にとって介護職とはどんな存在であるのか、介護職に求めること、期待することなどをグループで討議する。また、施設見学を行い、働く現場や仕事内容についてグループで討議する。
2	介護における尊厳の保持・自立支援 9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援 9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援
	(1) 人権と尊厳を支える介護	(1) 同左 5	(1) 通信講習・講義及び演習：人権と尊厳について講義を行い、演習では尊厳を著しく傷つける言動とは何かと、その理由についてグループで討議する。
	(2) 自立に向けた介護	(2) 同左 4	(2) 通信講習・講義及び演習：自立に向けた介護について講義を行い、具体的な事例をもとに、利用者の残存機能を効果的に活用した自立支援や介護予防についてグループで討議する。
3	介護の基本 6時間	3 介護の基本 6時間	3 介護の基本
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	(1) 同左 1	(1) 通信講習・講義及び演習：介護職の役割、専門性と多職種について講義を行い、家族による介護と、専門職による介護との違い（介護環境、介護の専門性、介護にかかわる職種のそれぞれに違い）についてグループで討議し発表する。
	(2) 介護職の職業倫理	(2) 同左 1	(2) 通信講習・講義及び演習：介護職の職業倫理について講義を行い、演習では介護職としての社会的責任・利用者や家族と関わる際の留意点についてグループで討議し発表する。

別記第1号の2様式

	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	(3) 同左	2	(3) 通信講習・講義及び演習：介護における安全の確保とリスクマネジメントについて講義を行い、演習ではヒヤリハットの事例(感染対策・事故発生時の対応・報告)についてグループで討議する。	
	(4) 介護職の安全	(4) 同左	2	(4) 通信講習・講義及び演習：介護職の安全衛生を守るための事業者の取り組みや、介護職のこころの健康管理について講義を行い、演習では、現在抱えているストレスやストレス解消法について日常の気づきや対応方法、健康管理方法についてグループで討議する。	
4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携
	(1) 介護保険制度	(1) 同左	3	(1) 通信講習・講義及び演習：介護保険制度について講義を行い、演習ではグループ毎のケアマネジメント事例により、代表的なサービスの種類と内容を選択し、利用までの流れをグループで討議する。	
	(2) 障害者福祉制度及びその他制度	(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	3	(2) 通信講習・講義及び演習：障害者総合支援制度について講義を行い、演習では、障害者、その家族が障害福祉サービス利用までのプロセスをグループで論議する。	
	(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 同左	3	(3) 通信講座・講義及び演習：医療との連携におけるリハビリテーションの重要性を講義し、演習では事例により医療と介護職との連携の必要性をグループで討議する。	
5	介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5	介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5	介護におけるコミュニケーション技術
	(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 同左	4	(1) 通信講習・講義及び演習：心身の状態に応じた基本的コミュニケーションの取り方の講義を行い、演習では言語的・非言語的コミュニケーションによるロールプレイを行う。	
	(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 同左	2	(2) 通信講座・講義及び演習：記録や報告の重要性等について講義を行い、演習では事例をもとに記録し、内容・方法をグループで討議する。	
6	老化の理解 6時間	6	老化の理解 6時間	6	老化の理解
	(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	(1) 同左	3	(1) 通信講習・講義及び演習：老化に伴うこころとからだについて講義を行い、演習では感覚機能の低下によって日常生活に与える影響と実態について、グループで討議する。	
	(2) 高齢者と健康	(2) 同左	3	(2) 通信講習・講義及び演習：高齢者と健康について講義を行い、演習では日常の中でできる予防対策や実施方法についてグループで討議し発表する。	

別記第1号の2様式

7 認知症の理解		6時間
(1) 認知症を取り巻く状況		
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		
(4) 家族への支援		
8 障害の理解		3時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 こころとからだのしくみと生活支援技術		75時間
ア 基本知識の学習		10～13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解		

7 認知症の理解		6時間
(1) 同左		1
(2) 同左		2
(3) 同左		2
(4) 同左		1
8 障害の理解		3時間
(1) 同左		1
(2) 同左		1
(3) 同左		1
9 こころとからだのしくみと生活支援技術		75時間
ア 基本知識の学習		12時間
(1) 同左		4.5
(2) 同左		3

7 認知症の理解		
(1)	通信講習・講義及び演習：認知症ケアの理念について講義を行い、演習では、事例により認知症の方の心理・行動の実際を示し、どのような視点で行動するのか、また不適切なケアでどのような行動になるのかをグループで討議する。	
(2)	通信講習・講義及び演習：認知症の概念と、認知症による障害・健康管理について講義を行い、介護側の対応にてBPSD症状が現れる背景について、事例によりグループで討議する。	
(3)	通信講習・講義及び演習：認知症利用者の生活障害などについて講義を行い、演習では認知症利用者に見られる行動の特徴について、グループで討議し発表する。	
(4)	通信講習・講義及び演習：認知症利用者を抱える家族への支援について講義を行い、演習では、家族のストレスについて、事例によりグループで討議し、介護拒否・虐待について考え、発表する。	
8 障害の理解		
(1)	通信講習・講義及び演習：障害の基礎について講義を行い、人間の生活機能分類についてグループで討議し発表する。	
(2)	通信講習・講義及び演習：視覚障害・聴覚障害・精神障害・内部障害について講義を行い、演習では視覚障害・聴覚障害を想定し体験し、日常生活にどのように変化を与えるか、どのように対応して欲しいかをグループで討議する。	
(3)	通信講習・講義及び演習：障害者家族への支援について講義を行い、演習では障害者の自立を支える社会資源はどのような形でどのような所にあれば利用しやすいかグループで討議する。	
9 こころとからだのしくみと生活支援技術		
ア 基本知識の学習		
(1)	通信講習・講義及び演習：介護の基本的な考え方について講義を行い、演習では事例により、どこが我流介護なのかグループで討議し発表する。理論と根拠に基づく介護について個別支援の重要性についてグループで討議する。	
(2)	通信講習・講義及び演習：こころとからだについて講義を行い、事例により、老化や障害をどう受け入れるか、またその対応についてグループで討議する。	

別記第1号の2様式

(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	(3) 同左	4.5	(3) 通信講習・講義及び演習：からだのしくみについて講義を行い、演習では、こころとからだを一体的に考え、利用者の様子観察点についてグループ討議をする。水銀レス血圧計にてバイタルチェック・体温の測定実技演習をする。
イ 生活支援技術の講義・演習 50～55時間	イ 生活支援技術の講義・演習 51時間	イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 生活と家事	(4) 同左	4	(4) 講義及び演習：家事と生活について講義を行い、演習では、ICFの視点を元に、自立支援を考えた生活援助方法をグループで討論する。
(5) 快適な居住環境整備と介護	(5) 同左	2.5	(5) 講義及び演習：快適な生活を送るために必要な居住環境の整備、生活の各場面で活用できる福祉用具について講義を行い、演習では在宅・施設での環境整備を行うにあたり、各場面で活用できる福祉用具の検討や支援方法を、グループで討論し発表する。
(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(6) 同左	6.5	(6) 講義及び演習：整容意義について講義を行い、身体機能に応じた着脱方法、残存機能を活かした身支度方法をグループ毎に実技演習する。
(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(7) 同左	12	(7) 講義及び演習：移動・移乗に関するからだのしくみについて講義を行い、移乗・移動介助、用具と活用方法について学びグループ毎に実技演習をする。
(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(8) 同左	6.5	(8) 講義及び演習：食事の意義や目的から、栄養に関する知識、疾患における栄養の調理方法について講義を行い、色々な食形態を準備し、グループ毎に食事介助の実技演習をする。併せて、姿勢・生活環境・福祉用具・身体状況を考えた実技演習もする。
(9) 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 同左	6.5	(9) 講義及び演習：入浴や清潔保持の意義と目的、方法や残存機能を活かす入浴方法について講義を行い、グループ毎に全身清拭・足浴・洗髪（ベッド上）、プライバシー羞恥心への配慮の実技演習をする。
(10) 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 同左	6.5	(10) 講義及び演習：排泄に関する基礎知識、羞恥心、排泄のしくみについて講義を行い、心理的負担・尊厳や生きる意欲につなげられる排泄介助方法をグループ毎に実技演習する。
(11) 睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左	5	(11) 講義及び演習：睡眠のメカニズムや心地よい睡眠を確保するための環境、福祉用具の活用法、睡眠障害について講義を行い、身体状況に合わせた姿勢、体位、リネン交換方法をグループ毎に実技演習をする。
(12) 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左	1.5	(12) 講義及び演習：ターミナルケアの考え方、臨終に際する家族や本人へのかかわり方の講義を行い、介護職としてのかかわりについてグループで討議する。

別記第1号の2様式

(実習) [※] (50～55時間中12時間以内)	(実習) [※] 0	(実習) [※]
介護実習 ○時間		
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間		
在宅サービス提供現場見学 ○時間	0	
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習 12時間	ウ 生活支援技術演習
(13) 介護過程の基礎的理解	(13) 同左 6	(13) 講義及び演習：根拠や理由に基づく介護実践方法や残存機能を活用した、個性の高いケアプランについて講義を行い、演習では、事例にてアセスメントからプラン作成をグループ毎に作成し発表する。
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 同左 6	(14) 講義及び演習：事例の意義や留意点について講義を行い、演習では複数事例にて、移動、移乗・排泄介助・食事介助・衣類の着脱等グループで実技演習した後、実技評価をする。
10 振り返り 4時間	10 振り返り 4時間	10 振り返り
(1) 振り返り	(1) 同左 3	(1) 講義及び演習：講義にて研修での学びを振り返り、研修を通して学べたこと、どんな介護職員として利用者と接していきたいか介護についての要点をふまえ、グループで討論し、発表する。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 同左 1	(2) 講義及び演習：研修後におけるステップアップ方法について、事例を紹介する講義を行い、演習で、キャリアパスをふまえた自分のこれからの目標をそれぞれまとめ発表する。
追加カリキュラム		
計 (130時間)	計 (130時間)	

※「9 ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。